



誰にとっても快適な ホテルをめざす 「ユニバーサルホテル」の挑戦

写真：河野 豊

対談 井出泰済(富士レークホテル代表取締役社長) × 高橋 豪(NTTクラリティ)

富士山の北麓、河口湖のほとりに「ユニバーサルホテル」としてその名を全国的に知られる「富士レークホテル」がある。NTTクラリティの高橋豪が、代表取締役社長の井出泰済さんに、ユニバーサルサービスを提供する意義と難しさについてうかがった。

ハード面はもちろん、ソフト面でも「ユニバーサル」

高橋 昨晚、こちらに宿泊させていただきましたが、素晴らしいホテルですね。

井出 ありがとうございます。

高橋 「ユニバーサルホテル」として全国的にも有名でいらっしゃいますから、設備面がしっかりしていることはもちろんなのですが、ソフト面での素晴らしさも、昨日、実際に体験することができました。夕食の時のことですが、視覚障がいの方に、きちんと担当のスタッフが、一品一品、料理の説明をいらっしゃるのを拝見しました。

井出 ありがとうございます。

高橋 ただ、メニューの説明はもちろんですが、視覚障がいの方には、温かいものがあるとか、火を使っているとか、そういったことも声をかけていただくと、より安心して食事ができると思いました。

井出 なるほど、そうですね。「ユニバーサルホテル」として、皆さんに知っていただくようになり、今日のように、取材

の機会も頂戴するようになりましたが、まだまだやるべきことはあると思っています。今のような様々なご意見をもとに、少しずつサービスをよいものにしていきたいと思っています。特に視覚、聴覚障がいの方への対応については、まだまだこれからだと考えています。

高橋 今一番重点的に取り組んでいらっしゃるの、どのような点ですか？

井出 車いすのお客様をはじめとする、いわゆる下肢障がいの方々に対する避難誘導です。健常者に対する避難誘導は、消防署から指導を受け、検査を受けて、合格をいただいています。ところが、現在の消防法では、車いすのお客様の対応までは、求められていないんです。ですから、自分たちで独自に作りあげていかなくてはいけないんです。

高橋 独自に、ですか。それは大変そうですね。

井出 今は、下肢障がいの方が宿泊されている部屋をホワイトボードに書いておき、スタッフで共有した上で、災害時には、優先してご案内していこうと考えています。やっと取り組みはじめたばかりです。社内だけでは、危機管理

に目が行き届かないと、外部の専門家にもご指摘をいただきながら進めています。どんなことでもそうなんですが、改善することは山のようにあります。しっかりやっていかないといけないと思っています。

ユニバーサル化のきっかけは、アメリカ留学

高橋 富士レークホテルがユニバーサル化に取り組むようになったきっかけは、どんなことだったのですか？

井出 私たちが「ユニバーサル化」に取り組みはじめたのは、1999年からです。3つの理由がありました。まず私自身が、左の耳が聞こえないということ。小学校に入る頃、中耳炎を患ったのが原因で左耳が全く聞こえなくなりました。以来、コミュニケーションが難しく、生活面で不便を感じたり、また心理的にも人一倍臆病になってしまった、という面があります。

2つ目は、大学時代に2年間アメリカに留学した時の経験です。「レクリエーション・マネジメント」を学びました。「レ



クリエイション」というのは「元気な体・元気な気持ちに戻す」といった意味合いの言葉で、具体的にはレジャーや、ホテルやレストラン等におけるサービスにおいて楽しいことや喜びをいかに提供していくか?又享受頂くか?ということや、病気になった方あるいは障がいのある方が、社会の中で自然に過ごしてもらうためにはどうすればいいかについて学ぶ機会を得ました。

高橋 そんな学問があるんですね。

井出 1987年のことでしたが、たとえば野球のスタジアムを見学すると、車いすの方が観戦できる場所がちゃんとある。「これが普通なんだ」という感覚を持つようになりました。3つ目は、日本の経済状況です。バブルがはじけたのが、1990年ごろ。団体旅行で宴会をするという形が崩れ、新しいホテルのあり方を、全国各地で模索していました。私どもも新しい取り組みを探さなければならず、そんな中で、「ユニバーサルデザイン」をホテルに導入できないかと考えたのがきっかけです。

1998年、山梨県が主催した講演会に、ユニバーサルデザインの世界では著名な、中川聡先生がいらしゃったので、その場で先生に「ユニバーサルデザインの部屋を作ってくれませんか」とお願いをしました。私は当時33歳。翌年、第1号のユニバーサルデザインルームができた。それが、スタートになります。

東日本大震災以降、ユニバーサルは「売り」になった

高橋 お客様の反応は、いかがでしたか?

井出 実は、2011年ごろまではユニバーサルデザインの部屋は50%しか稼働していませんでした。一般客室の稼働率は65%~70%ですから、明らかに低い。新しく作ったユニバーサルデザインの部屋が、50%しか稼働していないんで、「経営的に何を狙っているのか」と、銀行からも厳しく指摘を受けました。

高橋 本当ですか?今からは想像もつきませんね。

井出 ユニバーサル化には取り組んできたのですが、それを表には出さなかった。それはなぜか。お客様の8~9割は健常者です。「ユニバーサルホテル」を強く出し過ぎてしまうと、健常者が来なくなってしまうのではないか、という心配があった。ですから、お問合せをいただいはじめて「ユニバーサル対応をしています」と、お答えしていました。あまりユニバーサル対応が全面に出過ぎてしまうと集客ができなくなってしまうという危惧がありました。この事については、当時の判断としては、正しかったと思っています。

転機は2011年3月11日です。東日本大震災の影響から、3~4か月間、ホテル業は低迷し、まったく先が見えない状況になりました。私自身が、あらためて、この後どうしていけばいいのか、考えました。そうした状況の中で、当時、内

閣府でユニバーサルデザインの表彰制度がありました。時間はたっぷりありましたから、それまで取り組んできた当館のユニバーサル対応のことを取りまとめ、応募したところ、お蔭さまで、「内閣府特命担当大臣表彰優良賞」をいただくことができました。

それから、「社会的価値のある事なんだから、もっとしっかり表に出していこう」と考えるようになりました。パンフレット、ホームページにも「ユニバーサルホテル」を出すようにしました。ホテルの特色として打ち出していこう。「ユニバーサルホテル」を全面に出してやっていこうと思いました。マスコミにも取り上げていただき、そうこうするうちに稼働率が65~70%になり、これなら経営的にもやっていける、というところまで持っていくことができました。このことは私どものホテルが表立って「ユニバーサル」をPRしたからという一面だけではなく、時代の変化で、世間一般で



様への対応と、障がいのある方へのバリアフリー対応は、基本的には同じなんです。

高橋 どういうことでしょうか?

井出 ユニバーサル対応のお部屋になっていますから、段差がなく、間取りもゆったりとしています。またトイレ、お風呂も広がっています。これらの設備は、そのまま乳幼児のお子様連れにも対応できるのです。その他に、乳幼児用にはトイレとか貸出備品が必要です。そちらは部屋に事前に用意しています。(※事前にご要望頂いた際、チェックイン前にお部屋にセットしておきます。)

お料理にも、バリアフリーとママ&ベビーには共通する部分があります。飲み込めない、噛めないという方には、食べやすいように食材を刻んで提供しています。その対応は、乳児に対しても同じです。味付けに対するご要望にも、できる限り応じています。

「バリアフリー」という概念より幅広い「ユニバーサルデザイン」という概念が定着してきたからということが、大きな要因であると思っています。

障がい者だけでなく、高齢者にも、赤ちゃんにも対応する

高橋 客層も、変わってきましたか?

井出 大きく変わりました。1990年代半ばまで、団体の宴会のお客様が多かったです。団体でバスに乗って、宴会をしにきてくださる。そういった方々ばかりでしたけれども、客層がガラッと変わってきました。高齢者や、家族連れのお客様が増えました。

高橋 乳幼児には、どういう対応をするのですか?

井出 私たちは、乳幼児とそこご家族を「ママ&ベビー」のお客様とお呼びしていますが、「ママ&ベビー」のお客

こうしたきめ細かい対応には「ハード」だけではなく、「ソフト」の部分が大事になります。スタッフ皆さんが協力し、一つにならないとやっていけないんです。バリアフリーとママ&ベビーのサービスは、根っこは同じ。どちらも「ソフト」で、きめ細かい対応をしていくことが、大事なんです。

高橋 今日、河口湖には海外からの観光客がたくさん来ていますね。

井出 私も3年前までは、海外の方がこんなに来てくださるとは、想像もしていませんでした。海外の方は、3倍ほどに増えました。もちろん、ユニバーサルサービスを提供しているからというだけで来ていただいているわけではないと思います。ですが、ホテルでは言葉、料理などご不便があると思うので、そこにはご対応したいと思っています。

高橋 海外の人が来た場合は、どういう対応をするん



ロビーにはスロープがつけられ、車いすでの移動ができるようになっている。



客室の扉は引き戸で、開口も広く、車いすでも入りやすい。入口から部屋の中までフラット。



車いすから乗り移ってシャワーを浴びることができる。これにはNTTクラレティ・高橋もびつり。



ベッドは角度と高さが自由に変わられ、車いすから体を移したり、またベッドから起きるのに便利。



座ったままの状態でご入浴できる補助装置付きの貸切風呂。家族みんなでお風呂を楽しむ。

ですか?

井出 2つあります。1つ目は、言葉です。正直に申し上げて、語学力などは急に身につけられるものではありません。ですから、例えば中国語でご案内する時の説明書を書いてみたり、少しずつやっていくしかないと思っています。2つ目は、お料理です。日本の食文化とは違いますので、「お肉が食べられない」など、様々な要望があります。そういうご要望に対しても、出来る限り対応しています。決して100点満点ではないかもしれませんが、少しでも要望に応えられるように、という姿勢で取り組んでいます。

高橋 そうした対応力や柔軟性は、やはりバリアフリーからきているのですか?

井出 バリアフリーは、最初のきっかけになっていると思います。でも、「ユニバーサル」という言葉にありますように、「バリアフリー」だけではなく、ご高齢のお客様、妊婦さ



井出 私たちが作った第1号のユニバーサルルームは、実は病室のような部屋だったんです。手すりがたくさんついていたり、例えば、聴覚障がいの方への対応という事で、部屋にフラッシュランプを置いておいて、来客があると点滅してわかるとか、視覚障がいの方向けに部屋のスイッチを押すと音がしたりとか。今思えば、介護施設のような感じでした。それで結局、不評を買ったんです。「機能面はいいが、旅行に来ているんだから、非日常感や楽しさを味わいたい」と言われました。

普段は介護施設に入っている方でも、旅行に来て頂く場合は、ゆったりと河口湖温泉に入ったり、おいしい料理を堪能頂いたり「非日常」をこそ楽しみに来て頂いている。そこを理解していませんでした。「おもてなし」のプロであるべき私たちホテルマンが、おもてなしの一番大事なところが抜けていました。そこで第2号のユニバーサルルームから、考え方を変えました。非日常を味わうことができる雰囲気を大事にしようと、設備や備品類にも高級感を出すようにしました。日ごろのいろいろな事を忘れて、リラックスしたいとお越しになるのですから、多少、機能面で不備があっても、雰囲気を大事にしています。オフィシャルのバリアフリーは、機能面で劣るのはまずいかもしれませんが、ホテルでは、雰囲気を重視するので、そこは少し違うのだと思っています。

高橋 おっしゃるとおりですね。

ん、乳幼児、海外からのお客様など、多様なお客様の多様なニーズに、どれだけ応えられるのかが「ユニバーサル」なのだろうと思います。時代のニーズがますますその方向に行っていると感じています。

病室みたいな部屋じゃ泊まる意味がない

高橋 私たちNTTクラレティも、オフィスビルや商業施設のバリアフリーの事例は、いくつも見てきました。ですが、宿泊施設のバリアフリーという点、また違う考え方が必要なのかな、と思うんです。たとえば、このロビーにしても、車いすが通りやすいようにと、イスやローテーブルの間隔をただ開けて、整然と並べてしまうと、滞在の喜びや体験価値のようなものが提供できないのではないかとと思うのですが?

かい確認が必要です。それをしなければ、来ていただいても結局、設備を使えないこともある。せっかくのユニバーサル設備が、なんにもならない。ですから、事前のお問合せには、丁寧に対応しています。その時に大切なのは、要望をいただいた際に、「NO」と言わないこと。できる限りの対応をさせていただくようにしています。

講演などで、ユニバーサルについてお話をさせていただく機会も多いのですが、ホテルや旅館の経営者の皆さんは、その場では「その通りだ」と賛成してくださるのですが、実際にバリアフリー、ユニバーサルの対応をするか、という「うちではできない」となることが多いのです。ですから、今高橋さんがおっしゃったように、電話での対応に、姿勢の差が如実に現れると思います。しかし、特別にユニバーサル対応の設備がなかったとしても、一般的な旅館にもできる対応が沢山あります。「ハード」が充実していなくても、「ソフト」の対応はできますし、「ソフト」さえあれば十二分に受入出来ますので同業者の皆さん方にもユニバーサル対応を是非とも積極的に取り組んで頂きたいと思っています。

「ハード」だけではなく「ソフト」のユニバーサル対応を

高橋 富士レークホテルのユニバーサルの取り組みは、今後どのように展開していくお考えでしょうか。

井出 これまで取り組んできてわかったことですが、「ユニバーサル」は奥が深く、簡単ではないです。今でも、富士山で言えば五合目です。ユニバーサルホテルとして、少しずつ名前が知られてきているんですけど、できていないことも多く、来ていただいたお客様から「期待していたけど、全然ダメ」とか、「こんな対応でいいんですか」とご意見をいただくこともあります。

高橋 そんなこともあるんですね。本当に難しい。

井出 富士レークホテルには社員が60名、パート60名。アルバイトが40~50名います。ユニバーサルの取り組みを続けるということは、現場には大変申し訳ないのですが、普通のホテルの仕事より、エネルギーが必要です。スタッフの皆さんに協力してもらって、なんとかやっていけているとう感じです。みんなが一体になって、動き続けることが必要だと思っています。まだまだ至らないことも多いのですが、「ハード」でできないことは「ソフト」でカバーしていこうと。どんなことでも、どんなご要望に対しても対応していきたいという姿勢で、これからも取り組んでいきたいですね。

高橋 昨日から今日にかけて、本当に貴重な体験をさせていただきました。井出さんのおっしゃる姿勢が、よく理解できたと思います。ありがとうございました。

いで やすなり

1965年生まれ、1994年、家業の株式会社富士レークホテル入社、2009年代表取締役社長就任。1999年より、ホテルのユニバーサルデザイン(UD)化に着手。2011年、内閣府より「バリアフリーUD推進功労優良賞」受賞。現在、全国旅館ホテル生活衛生同業組合連合会シルバースター部会経営研究委員会委員。

たかはし こう

NTTクラレティ株式会社 営業部。秋田県出身。29才の時に、脊髄炎を発症し下半身麻痺となった。埼玉県での職業訓練校を経て、2016年1月にNTTクラレティ入社。現在、障がい者・高齢者に役立つポータルサイト「ゆうゆうう」の運営に携わっている。

【障がい者水泳】

水泳は、自分自身との闘い。
だけど仲間がいるから、
強くなる

まだ少し肌寒いある日、千葉県習志野市にある、千葉県国際総合水泳場に向かいました。Tシャツと裸足になって、プールサイドに入ると、むっとした暑さ。先程までの寒さはどこへやら、すぐに汗が吹き出しました。太陽の光が差し込んだプールで、水しぶきをあげながら泳ぐ人たちは、なんとも気持ちがよさそうです。

今日は、障がい者競泳水泳チーム「千葉ミラクルズSC」の練習の日。千葉県で唯一の障がい者競泳水泳チームです。登録しているのは、20名ほど。ほとんどが社会人で、主に身体障がい者が所属しています。今年リオデジャネイロで行われるパラリンピックに推薦されて内定している選手や、国体出場常連選手も所属する強豪チームです。

みんなで準備運動をしてから、練習がスタート。2コースを専有し貸し切って、泳ぎます。これから夏になると、一般の利用客も増え、コースを専有して貸し切

ることが難しくなり、練習場所の確保に頭を悩ませることもあるそうです。

障がい者水泳といっても、競技自体は健常者の水泳とほとんど変わりません。ただ、大会に出るときには、より公平に競えるように、障がいの種類や程度、運動機能によって細かなクラス分けがされます。また、スタート時の介助などが認められる場合もあります。

泳ぎによく目を凝らせば、足のキックがなく、腕の力だけで泳ぐ人や、片腕の力で泳いでいる人がいますが、スピードが出ているので一見わかりません。強いて違いを探すなら、プールサイドに義足や車いすが置いてあったり、練習メニューをコーチが説明しているとき、耳の聞こえない人のために、ごく自然に手話をしている人がいることぐらいです。

その中で、先頭を切って泳いでいるのが、「なべちゃん」こと、NTTクラリティ社員の渡辺昌彦。リラクゼーションルーム「リアン」でマッサージを施術しています。渡辺さんは自由形とバタフライの選手。14年前に目

泳のクラスのうちいちばん軽度の「S13」※のクラスで活躍。5年連続国体（全国障がい者スポーツ大会）に出場、県指定の強化選手にも選ばれる実力の持ち主です。この日は、合計3000メートルの練習メニューを、最後までスピードが落ちることなく、泳いでいました。いまは6回目の国体出場が目標です。

視覚障がい者の中にはターンやゴールを合図する「タッピング」という棒を使う選手もいますが、渡辺さんは使いません。小さい頃から水泳をやっていたので、「体が覚えている」のだそうです。いまは月2回ミラクルズの練習に参加し、週2回は自宅近くのプールへ行って泳いでいます。「でも、一人で今日のメニューをやろうと思ってもなかなかできないんですね。やはり周りの人ががんばってれば、無意識に引っ張られますし。それが、みんなで泳ぐ醍醐味ですよ」。仲間といっしょに泳ぐ時間は渡辺さんにとって欠かせない時間のようです。

※S13…矯正視力が0.1以下、あるいは視野20度以下、またはその両方の人のクラス。

CLARTE SPORTS



千葉ミラクルズSC
<http://homepage3.nifty.com/chiba-miracles/>

写真：岸本 剛



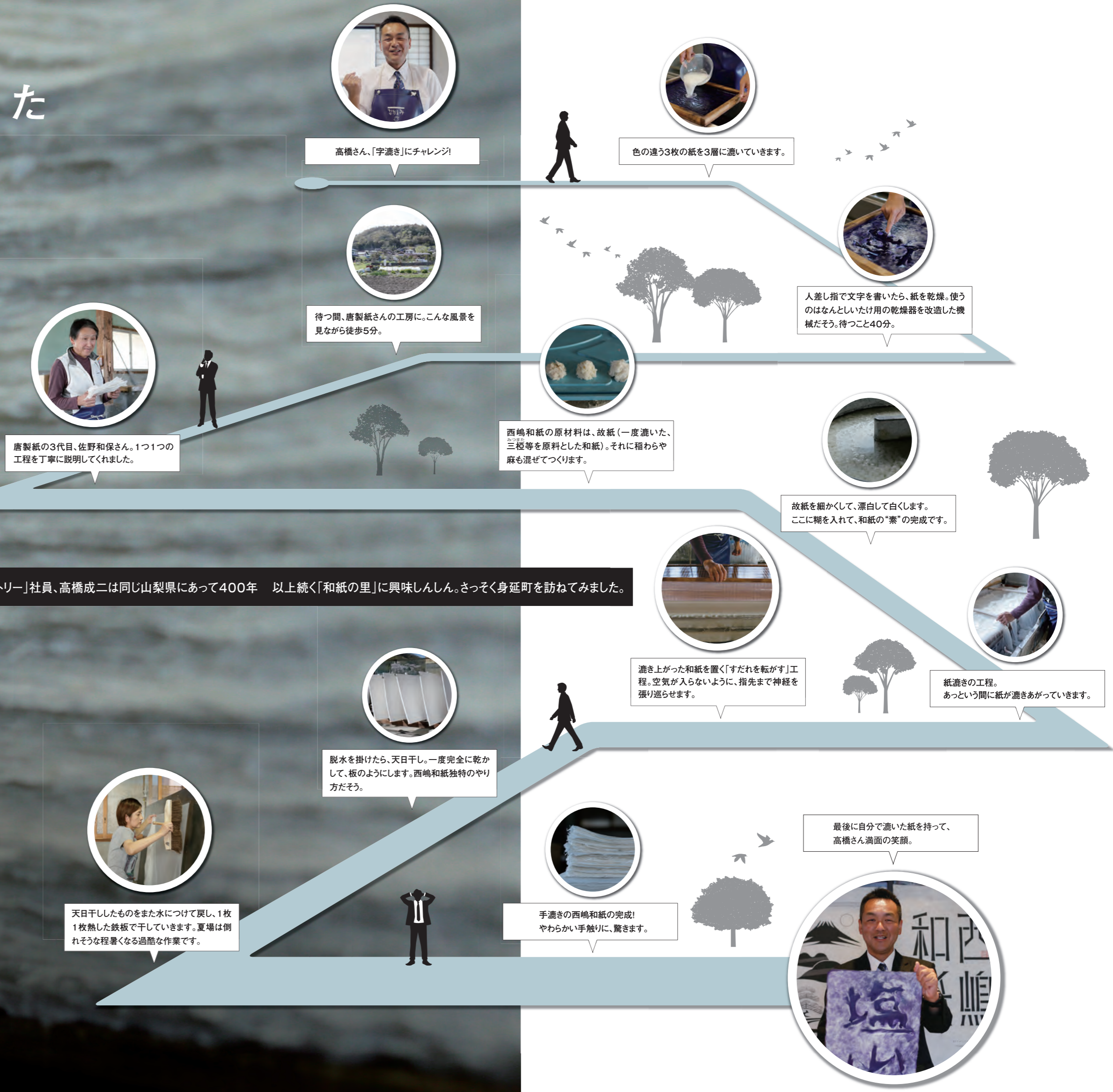
戦国時代から続く 「西嶋和紙の里」で出会った 「生きている紙」

富士山の西側に位置する山梨県身延町は、「西嶋和紙」の産地。手漉き和紙をつくっているNTTクラリティ「塩山ファクトリー」社員、高橋成二は同じ山梨県にあって400年以上続く「和紙の里」に興味しんしん。さっそく身延町を訪ねてみました。

まず訪れたのは「身延町なかみ和紙の里」。手漉き和紙体験のできる工房や、全国の和紙約2500種類を集めた紙屋さんがあり、西嶋和紙の歴史をまとめたパネルも展示されています。「実はうちの娘二人とも、小学校のときここで紙漉きをして、卒業証書をつくったんですよ」と高橋さん。今日はお父さんの高橋さんが、はじめての「字漉き」にチャレンジ！3つの色の違う紙を三層に重ねて漉いた後、指で直接文字を書きます。遅すぎても、速すぎてもきれいな文字にならない、と言われて思わず「緊張します」と、高橋さん。でも、いざ指を下ろすと大胆に指を動かし、堂々とした「塩山」の文字を描きました。そして紙が乾くまでの間に、「なかみ和紙の里」を離れ、町内で5軒残る手漉きで「西嶋和紙」をつくる工房のうちの1つ、「唐製紙（からせいし）」さんを見学しに行くことに。

西嶋和紙の起源は戦国時代といわれ、武田信玄に献上し喜ばれた、という話も残っています。戦後はじまった書道用紙づくりがいまでは中心になり、独特の

「にじみ具合」や「筆ざわり」、「墨色の発色」が特徴です。「紙は、生きているからね。同じように見えても、毎日ちょっとずつ違うんだよ」と教えてくれたのは、唐製紙の三代目、佐野和保さん。早速見せてもらった紙漉きは、熟練の作業で仕上がりの早いこと。30秒も経たず1枚の紙が漉き上がります。一つひとつの所作に何十年も同じ動作を繰り返してきた職人の「技」があり、思わず見とれてしまいました。紙を漉いたら待っているのは「干す」工程。実は、干すのも技術がいる作業。一旦天日で干した漉き紙を再度水で戻し仕上げていきます。1枚ずつ熟した鉄板の上に貼り付けられていく紙は、まるで布のようになややか。出来上がった紙は、やわらかい触り心地で、思わず高橋さんも「気持ちいいですね〜」。書家の中には、「紙が落ち着いている」といって、何年か寝かせた紙を好む人もいます。まさに紙が生きていることを実感します。「もう、脱帽です」と高橋さん。匠の技に触れ、仕上がった自作の紙を手にし体験が終了した高橋さん。大いに刺激を受けた一日になりました。



写真：武藤奈緒美



「ワクワク」でつながろう。 まちづくりの新たな試み

「つばめ若者会議」と「チームワンダー」

<http://tsubame-wakamono.com/>
<https://www.facebook.com/teamwonder/>



2015年9月12日の夜、新潟県燕市役所の庁舎前の芝生の広場を使って、野外映画上映会「『みんなの学校』夕暮れワンダー映画館」が開催されました。夜の市庁舎にみんなで集まって、庁舎の外壁のスクリーンでの映画鑑賞は、またない経験となりました。

また、その前年には市庁舎の中にある「つばめホール」が、紙吹雪で埋めつくされました。大人も子どもも一緒に楽しめる体験をするワークショップ「ひろちゃん市」で、市内の障がい者施設の人たちが切ってくれた5000枚の紙吹雪を、みんなで一斉にまきました。

これらのイベントは、燕市が主催する「つばめ若者会議」の取り組みの中から生まれたもの。「つばめ若者会議」は、燕市のまちづくりの一環として企画され、今年(2016年)で、3年目を迎えます。「つばめ若者会議」を



Photo: Toru Takahashi

担当する、燕市役所企画財政部地域振興課地域振興係の外山敬太さんと河合健さんは「燕市は、地場産業である金属加工業を筆頭に、仕事はあるのですが、若い世代がなかなか住んでくれないという現状があります」と、市の課題を話してくれました。大学進学時に新潟市や東京に出てしまい、戻ってこないのだそうです。そこで、40歳以下の人たちを対象に、「若者自らが暮らし、そして、子どもたちに引き継ぎたい20年後の燕市はどんなまちがよいか?」を語り合、実現していく場を作ったのだそうです。メンバーがそれぞれ「子育て」、「福祉」、「起業」、「食」などテーマを持ったプロジェクトを立ち上げ、その活動を市が支援するというスタイル。あくまで参加者の自主的な取り組みがスタートラインになっていることがポイントです。「つばめ若者会議」のプロジェクトの中でもひとさわ異

彩を放っているのが「チームワンダー」。冒頭の上映会も、「ひろちゃん市」も、「チームワンダー」が仕掛けたものです。「チームワンダー」の深海寛子さんは、障がいのある子どもも一緒に遊べるママサークル「はっぴーザウルス」の代表でもあります。そんな深海さんが「つばめ若者会議」でやろうと思ったテーマは「福祉」でも「子ども」でもなく、「ワンダー」。確かに、上映会もひろちゃん市も、誰もが「ええっ」と驚き、そのあとで笑顔になれるような「ワンダー」が詰まっていた。この「非日常」が、人の心をほぐし、参加した人同士をつなげる、そんな役割があるのだと思います。

燕市の伝統工芸「鉦起銅器」の職人である傍ら、以前から環境問題を考える活動などしていた大橋保隆さんも、そんな深海さんの考え方にひかれ、一緒に

「チームワンダー」の活動に参加するようになって、地域との向き合い方が変わったといいます。「今までは、環境活動と、自分自身の仕事である銅器づくりが繋がっていませんでした。ですから、環境活動のサークルと一緒にやっていた人は、私がどんな仕事をしているのか、働いているかすらわからなかったと思います(笑)」。チームワンダーでは、職人としての自分と、地域の中で暮らす自分とが、自然に結びついている、と話してくれました。

燕市役所の外山さんと河合さんも、「このプロジェクトがはじまってから、チームワンダーや若者会議の話を、市長と直接するようになって、市役所の風通しの良さを実感しています」とニコニコしながら話してくれました。

ワクワクとドキドキで、燕の人たちをつなげていく「チームワンダー」の今後に注目です。



写真:武藤奈緒美

クラルテ4号でご紹介した錦糸町の銭湯「御谷湯(みこくゆ)」さん。昨年(2015年5月)リニューアルオープンして、大にぎわいと聞いて、再び訪ねてみました。大通りを少し入ると、ありました。白い5階建てのビルに「御谷湯」の看板。看板がなければここが銭湯だと気づかない人もいるかもしれません。建物だけでなく、中も普通の銭湯とはひと味違います。お湯は、「黒湯」という温泉で源泉掛け流し。お風呂の種類も、スカイツリーが見える半露天風呂に、体温と同じ温度の不感温温泉、薬湯、打たせ湯…と豊富です。近所の常連さんから、噂を聞きつけた銭湯ファンまで、1日300人、週末は500人もの人がやってきます。



ポーン・クロイドさん

新しくなった御谷湯さんは入り口から上階にある浴場まで、すべてフラットで段差がありません。もしも車いすでもそのままエレベーターで浴場に行くことができます。すべての階に多目的トイレもついています。1階にはお休み処のほか、「福祉型家族風呂」があります。これは、障がい者やお年寄りなど介助が必要な人と、介助する人がいっしょにお風呂を楽しんでほしい、とつくられました。ひのきで出来た湯船を貸切で使うことができます。混浴に

わざわざ、行きたくなる銭湯 生まれ変わった 「みんなにやさしいお風呂屋さん」

御谷湯(東京都)
<http://mikokuyu.com>



あたるということで、たとえ夫婦であっても、異性の介助者との入浴は認められていませんが、区との話し合いを続けています。

この銭湯の清掃をまかされているのが、NPO法人カラフル・コネクターズ(通称「カラコネ」)。「地域を支える存在に」を合い言葉に、13人の障がいのある人たちが働いています。代表のポーン・クロイドさんはリニューアルオープンからの日々を振り返って「清掃の仕事に慣れるのに精一杯でした」と話します。しかし少しずつお客さんとのつながりも生まれてきました。たとえば、昨年秋からはじめたのは、週に1度の「お出迎え」。開店時間の15時30分に入り口に立ち、お客さんへの声かけや、自転車置き場への誘導を行います。「いらっしゃいませ〜」「こんにちわ」、思い思いの言葉をお客さんにかけて。清掃を担

当していることを知っている常連さんも増えてきて「ありがとう」と声をかけられることも。これからは、地域を支える担い手として、御谷湯の清掃はもちろん、近所に住むお年寄りの買い物の代行など、ちょっとしたお手伝いや、ボランティア活動なども積極的にやっていきたいと考えています。せっかくなので自慢のお風呂に、入らせてもらいました。お湯に浸かっていると「あ〜ひさしぶりねえ、元気してた?」「ちょっと遅めに来たのよ」「この前の週末は、男湯で下駄箱が足りなかったらしいよ」なんて、常連さんが話に花を咲かせていました。ここはもう、欠かせない生活の一部なのです。

リニューアルして、誰にとっても入りやすくなった御谷湯。地元の人たちに愛されるこのお風呂屋さんを、ポーンさん率いる「カラコネ」のメンバーたちが、支えています。

顔の前に広げた手を「やあ〜」と横切らせる独特のジェスチャーから「月曜男」さんの手話ブログは、はじめます。YouTubeで見ることができますが、音声はなく、手話だけが流れ続けます。その内容は、たとえばこんな感じ。

お腹がすいたから、その辺に置いてあったポテトチップスを開けて食べてたんだけど、妻が「手で食べればいいじゃない」って言うんだよ。実は僕、ポテトチップスを箸で食べていたんだ。でもこれには理由があって、油でべとべとになっている袋に手をつこんで、手の甲まで油でべとべとになるのが嫌だから箸で食べていたんだ。すごく食べやすいのに、僕って、変かな(笑)。

「月曜男」さんの手話を見ていると、手話がわからなくても、なんとなく内容がイメージできて、時には思わず、笑ってしまうこともあります。手話を知らない人にとっては、手話の世界への入り口にもなりますし、手話を学ぶ人にとっては、格好の教材になっているそうです。

自分の身近に起こった出来事を手話で面白おかしく伝えてくれる「月曜男」こと森崎興蔵さん。静岡市で理容室を営むかたわら「月曜男」として、静岡県聴覚障害者情報センターで手話ブログを発信し、また全国を講演会で飛び回る忙しい生活を送っています。

昔から「おしゃべり好きだった」という森崎さん、子どもの頃は同じろう者の友だちしかいなかったそうですが、若いころに通った手話サークルで、健聴の友だちができたとき、とても楽しかったそうです。そのサークルで、森崎さんよりもっと話すことが好きだった、ろうの先輩の手話を見て、「同じ手話でも人によって受ける印象が違う」ことに気づいたといいます。理容師の仕事しながら、手話講習会の講師をつとめていた10年前に静岡県聴覚障害者情報センターから声をかけられ、動画による手話ブログをはじめることになりました。「はじめてのブログは、電車の話でした。発車のベルが鳴っても、聞こえない人にはわからないから、目の前で扉が閉まってしまうことがある。電光掲示板のようなものがあればいいのに、というような内容でした」。しかしこれは、真面目過ぎて「つま



ない」と言われ、アクセス数もそれほど伸びなかったといいます。そこから、今のように日常の出来事を面白く伝えるスタイルが生まれました。それからはアクセス数は右肩上がり伸びつづけています。「目標は、手話界の『綾小路きみまろ』です」と、いたずらっぽく笑う森崎さん。今日もモニターの向こうから、誰かを笑顔にしています。

「月曜男」が手話で語る 日常に共感

「月曜男」の手話ブログ
<http://szdi-center.cocolog-nifty.com/>



初夏に使いたい おすすめストール、 タオル選

写真: 信澤邦彦

これからの季節、日差しや冷房から体を守ってくれるストールと、汗をかいたときに欠かせないタオルは大活躍してくれるアイテム。障がい者が関わって丁寧につくられた商品の中から、クラルテ編集部員イチオシの商品を、ご紹介します。



加賀山さんのおすすめ

カードがついているから、自分用にはもちろん、記念日の贈り物にもおすすめ。



ももぞの
百々染

16,200円(税込)

岐阜市の山々に囲まれた自然豊かな地で、自分たちで集めた季節の花や草木から、国産シルクを染め、つくられるストール。染めた日や染めたときの様子が書かれたカードつき。

社会福祉法人いぶき福祉会 第二いぶき
TEL:058-229-6464

高橋さんのおすすめ

藍の色合いが、とてもきれい。夏らしくて、気に入りました。



クラフト工房La Manoのストール

8,640円(税込)

東京・町田市の住宅街を抜け、ひっそりとたたずむ築100年の古民家で、自分たちの畑で育てた植物や敷地にある木々、藍などから糸を染め、その糸から1つ1つ手で織りあげた逸品。

クラフト工房La Mano
TEL:042-736-1455

男澤さんのおすすめ

いちばん触って、触り心地がよかつた。ちよつとびっくりするやわらかさです。



なないろストールStandard(春夏用)

7,344円(税込)

町工場が多く、ものづくりの伝統が息づく新潟県燕市。ここで高級ニット用の糸を使用し、手織りでつくられているのが「なないろストール」。春夏用は、色も手触りも、爽やかです。

合同会社あおぞら
TEL:0250-47-7152

陣野さんのおすすめ

色がインパクトがあって好きです。分厚いので、丈夫そうなのもうれしい。



ダイアログ・イン・ザ・ダーク・タオル

ラルゴ 2,700円(税込)

ダイアログ・イン・ザ・ダーク[※]の暗闇の案内人である視覚障がい者が商品開発に参加した、特別な肌触りのタオル。色は4色展開でこの朱色は開発担当の1人が視覚を使っていた時に見た「夕日が海に溶け込む時の色」を再現。

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン
TEL:03-3479-9682

藤村さんのおすすめ

普段使いにもってこい！被災地支援にもなるなら、なおさらいいですね。



モアイフェイスタオル

1,080円(税込)

イースター島から送られたモアイ像がある宮城県・南三陸町。モアイの意味、「未来に生きる」に思いを込め、東日本大震災で被災した作業所が、モアイ像をモチーフにメンバーのイラストをデザインしたジャガード織りフェイスタオル。

のぞみ福祉作業所
TEL:0226-46-5129



※純度100%の暗闇を視覚障害者のアテンドが案内する「暗闇エンターテインメント」。